

⑫-5 中央図書館へのバス公共交通の将来を考える

□舞鶴市の図書館サービスは、どう市民につながるか

- ①市民に身近な全市のサービス拠点に、自動車図書館が出かけに行きます。(地域サービス)
- ②中心市街地の交通結節点である西舞鶴駅東口に中央図書館を整備します。(至便な中央館)
- ③中央図書館には自動車利用の来館を受入れる十分な駐車場を整備します。(中央館駐車場)
- ④中央図書館へ交通弱者アクセスを支える公共交通システムを検討します。(公共交通改善)

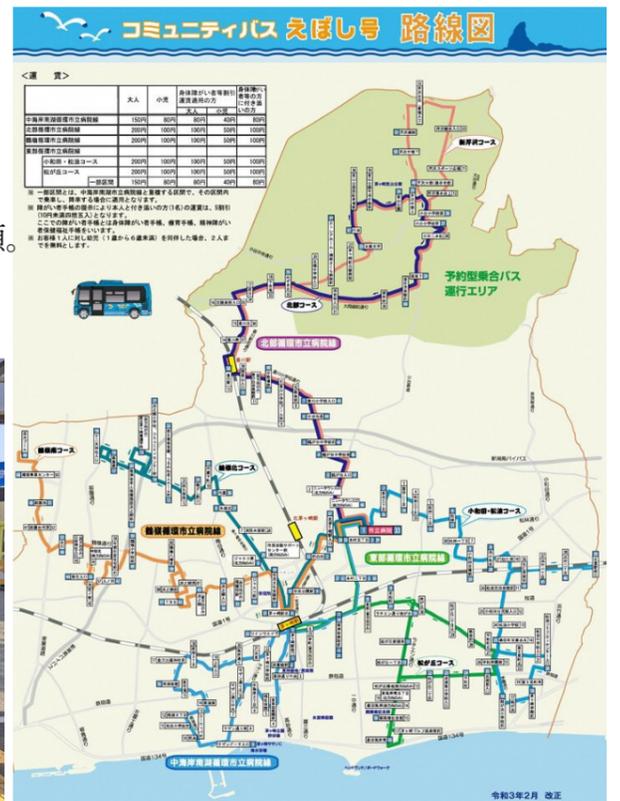
「舞鶴市地域公共交通計画」では、図書館サービスに限らず、高齢化社会に移行しつつも便利に舞鶴市に暮らすための社会基盤施策として、バス公共交通の改善が述べられました。それは、都市政策のひとつでもある図書館サービスからの政策課題④と連動しています。

舞鶴市のバス交通システムは東西2駅が起点となり、都心部循環バスと郊外へのフィダー路線で構成されていますが、自家用車社会でのバス利用者数の伸び悩みから、便数増加や低運賃化が難しく、事業採算性が課題です。上記の交通計画では、都市生活を支える公共政策としての取組が必要な段階であることが示唆されていると考えられます。

バス公共交通の社会政策化と採算性解決の課題は、全国的テーマで各地での取組があり、今後の舞鶴市の研究参考資料になると考えられます。浦安市や茅ヶ崎市の定額のミニバス運行の試みは、舞鶴都心部循環のバス事業の比較検討材料になりそうです。また、より採算性が低い場合には、タクシー会社と官民連携策を組んだ、藤沢市郊外鉄道駅からの循環乗合いタクシー(実証運行中)も舞鶴郊外へのフィダー路線検討に有効かもしれません。

□茅ヶ崎市「コミュニティバスえぼし号」の事例(企業スポンサー制)

- ・運行範囲：主要駅から市内全域5ルート巡回。(茅ヶ崎市は市域36km²)
- ・運行間隔：1日4本～20本
- ・運賃：大人150～200円、子ども80～100円、
幼児は大人1人につき2名まで同伴無料。障害者と付人は半額。
- ・定員：10人程度



□藤沢市「乗合タクシー」の実証運行中の事例

- ・運行範囲：主要駅から徒歩30分程度の距離を循環で運行。
- ・運行間隔：1時間1本程度。月～金曜(土日祝は運休)
- ・運賃：大人300円、子ども100円、幼児は大人1人につき2名まで同伴無料。
- ・実証運行主体：市都市計画課、市民センター、タクシー会社



※「舞鶴市地域公共交通計画」
＜公共交通で実現する
心が通う便利で豊かな
田舎暮らしができるまち＞
令和3年2月策定
令和3年3月施策スタート
には、自家用車利用が中心の
現状から、便利なバス公共交
通の充実した社会への移行が
必要になることが示された。

※市民ヒアリングでは、郊外に
つながるバスの運行数や料金
についての課題が開かれた。
免許返納が増える高齢化した
地域社会の便利な移動手段に
かかる課題が想像されている。

※都市計画で「バスの復権」が、
交通と環境問題対策で叫ばれ
たのは『楽しく歩ける街』1975
岡並木著がスタートだった。
歩車分離、バス復権、地域交通
システム計画の草創期実践書。

※茅ヶ崎市と藤沢市は神奈川県
南部の湘南海岸に面した隣接
市で、人口24万人と44万人。
JRと私鉄駅徒歩圏から外れる
バス利用圏域での高齢者移動
手段確保に課題がある。